

境内美術館 KEIDAI ART MUSEAM

太宰府天満宮の境内を歩く現代アート



The Problem of History歴史について考える

サイモン・フジワラ (Simon Fujiwara)

平成25年 (2013)

この作品の近くにある、ブロンズ製の麒麟像を見た？ 麒麟像はかつて二体存在したんだけど、一体は第二次世界大戦で武器をつくるための金属供出で失われてしまったという歴史があるんだ。ところでこのどこにでもありそうな椅子、なんとブロンズ製！ プラスチック加工でカモフラージュされることで、これまでその麒麟が生き延びてきたように、波瀾万丈の世界を残っていくのかもしれない。ブロンズの椅子が残った未来の世界は、どうなっているんだろう？

境内美術館 KEIDAI ART MUSEUM



この球体は、磁石に吸い寄せられた、たくさんの金属片でできているよ。圧倒的な存在感がある球体だけど、その中心にあるはずの“磁力”は、目に見えないんだ。この「中心にあるのに見えない」ことを表現した作品を、太宰府天満宮で見ることには、特別な意味がある。なぜなら、みんながいると信じていてお祈りをしている神様も、わたしたちの目には見えないから。作家は、目に見えない大切なものの存在を伝えようとしているのかな？